

労山あおもり

発行 青森県勤労者山岳連盟
責任者 理事長 竹内 紀夫
住所 青森市新城山田 587-248
電話 017-788-4028



要請書を手渡す全国連盟斉藤理事長

環境省へ要請

南八甲田登山道 速やかに整備を！

日本勤労者山岳連盟は11月14日、「山岳自然環境保護に関する要請」を環境省へ行いました。

かねてから当県連盟が要請していた、「南八甲田登山道整備」も一項目加えていただいた関係で、青森からも参加してほしいということで、成田が参加してきました。

まず斉藤理事長から要請書を手渡すセレモニーを行い、次いで環境省の各担当官が、予め渡されていた要請書の各項目に対して回答した、それに対して意見を交換した。

以下、「南八甲田登山道整備」問題のやりとりに絞って報告致します。

西村参事官補佐（自然環境局 自然環境整備担当参事官室）

登山は自然と触れ合う主要な手段、地域の自然環境に配慮し、地元の意見を聞きながら、整備している。しかし、自然保護管は一人で広範囲を担当している。

南八甲田に関しては、山岳関係者も含めた連絡協議会の場で議論している。

保全するのが重要だ、その中で利用をはかっていく、必要最小限の整備はしなければならない、踏み荒らしの復元をしている、現場現場でやる、環境省としてはやりたい。

成田茂則（青森県連）

（持参した資料を見せて）南八甲田の現状はヤブだらけです、遭難の危険性も有ると考え、昨年4月青森県山岳連盟、日本山岳会青森支部と三者連名で整備を要望した。

そうしたら8月危惧していた遭難が実際起きた、その後刈り払いした、（持参した資料を見せて）しかしまだヤブだらけです。

9月26日開催の（私たち登山団体等は正式メンバーではない）連絡協議会の場では、登山道の荒廃にランクをつけ、まずIランクの植生の保護をはかると、「どのように」、「いつ」やるかは、全く示していない。

標識についても、9月末につけて、11月に撤去するという状況だ。

（持参した資料を見せて）東奥日報（青森県の地方紙）の読者の声欄でも、一人を除いて整備を望む意見が圧倒的だ、また遭難が起きてからでは遅い、私たちはもう待ってられない、切羽詰まった状況で要望した、速やかに整備してほしい。

荒畑課長補佐（自然環境局 国立公園課）（前東北地方環境事務所国立公園・保全整備課長）

ここで成田さんに会うとは思わなかった。

南八甲田については登山団体（全登山者数に対して所属者も少ないと思うが）も考えてほしい、昨年8月の遭難者は地図と磁石を持っていなかった、地図と磁石を使える力量を持った登山者に入ってもらいたい、誰にでも入ってほしくない。また悪路というが、それでいて登山靴でなきゃだめという、長靴で入ることを考えてほしい。

私が担当してから、連絡協議会を立ち上げ登山団体の意見を聞く場を設け、進めた。

標識については、私がこっちへ来てからのことなので・・・・

成田茂則（青森県連）

環境省の管理計画では、「必要最小限の刈り払いを行う、標識や木道の整備をはかる」となっているが、15年も20年も刈り払っていないから、こうなっている、私は元に戻してほしいだけだ、速やかにお願いしたい。



講演する西岡修三 国立環境研究所特別客員研究員

第14回全国自然保護集会参加報告

日本勤労者山岳連盟主催・神奈川県勤労者山岳連盟主管の第14回全国自然保護集会が、11月15日～16日、神奈川県秦野市の表丹沢野外活動センターで、「地球温暖化が山岳自然に及ぼす影響」と「自然を傷つけない登山についての労山のスタンダード《基準》」について考えるをテーマに開催された。

前日の環境省への要請行動と併せ、成田が参加してきました。

詳細は後日「登山時報」に載りますので、感じた点のみ報告します。

- 今世紀中ごろ以降、白神山地もブナの適地でなくなる等、温暖化が自然環境の変化は勿論のこと、人間の生存を脅かしている、自分に何が出来るのか考えさせられた。
- 100人を超える参加者の夕食時のつみれ汁、キャンプファイヤー時のオデン、ヤキトリ、朝食の準備等、神奈川県連の力量を感じた。
- 他県は山の清掃に加えて水質検査、酸性雨の調査、植樹、高山植物保護のためのハイ松の切り払い等を行っている、青森県連でどういう自然保護活動を展開していくのか、考えさせられた。植生保護のためにも県内の荒れた登山道をチェックし、整備することもテーマになるのかな、いずれにしても自然保護担当理事や県連理事会で議論したい。
- ストックの使い方について、研究する必要があると感じた、ストックが流行りだしたのはここ10年くらいかな、講習会でも教えたこともないし、技術書にも載っていない、各々自己流で使っているのが実態と思われる、県連でも講習する必要があると思った。
- 携帯トイレの普及を徹底しなければと感じた。